



リニューアルオープン1周年記念 春季特別展

加賀・能登 王墓の世界



中能登町雨の宮1号墳 神獸鏡

(重要文化財、中能登町教育委員会蔵)

鏡は、「三種の神器」(鏡・剣・玉)に含まれるように、古代には権威の象徴になっていました。神獸鏡には、鏡面の裏側に中国の神仙の世界が浮彫りで表現されており、この鏡は中国製の神獸鏡を日本で模倣して作られました。雨の宮1号墳(国指定史跡)に納められていた副葬品で、この古墳には古墳時代前期(4世紀)に能登を治めていた有力な豪族が埋葬されたと考えられています。

石川県には約3000基の古墳が存在し、古代には加賀・能登の各地に有力な豪族が割拠していたことが知られています。豪族が埋葬された古墳(王墓)の副葬品に見られるように、豪族たちは新来の技術や文化を積極的に取り入れ、加賀国と能登国が成立する社会的基盤を形づくってきました。この展覧会では、県内の古墳から出土した豪華な副葬品や埴輪を一堂に展示し、個性豊かな古代文化が花開いた加賀・能登の国の始まりを見つめます。



■会 期

平成28年 4月16日(土)~5月22日(日)
※会期中無休

■会 場 石川県立歴史博物館 特別展示室

■開館時間 9:00~17:00 (展示室への入室は16:30まで)

■観 覧 料

[特別展]

一般700円(560円) 大学生560円(450円)

[特別展・常設展セット]

一般800円 大学生640円 高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金、65歳以上の方は団体料金

■主 催 石川県立歴史博物館

■主な展示資料

- 中能登町雨の宮1号墳 神獸鏡・短甲・腕輪形石製品ほか(重要文化財、中能登町教育委員会蔵)
- 小松市矢田野エジリ古墳 人物埴輪・馬形埴輪(重要文化財、小松市埋蔵文化財センター蔵)
- 加賀市狐山古墳 画文帯神獸鏡・甲冑・銀製帯金具ほか(東京国立博物館蔵)
- 能美市和田山1・2号墳 鈴鏡・鈴付銅釧ほか(京都国立博物館蔵)
- 穴水町袖ヶ畑古墳 双龍文環頭大刀(前田育徳会蔵) 等
総件数:約200件

■後 援 北國新聞社・NHK金沢放送局・北陸放送・石川テレビ放送・テレビ金沢・北陸朝日放送・金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお

リニューアルオープン1周年記念 春季特別展「加賀・能登王墓の世界」

本展は、石川県の古墳時代を紹介する展覧会で、古墳時代をメインテーマとする特別展は、当館では初めての開催になります。「王墓」と呼ぶと、少し大げさに聞こえるかもしれませんが、石川県にも国の史跡に指定された貴重な古墳や重要文化財に指定されている副葬品や埴輪があります。古墳は、教科書に載っている奈良県や大阪府の前方後円墳が有名ですが、石川県にも北陸最多の3000基あまりの古墳が残されています。この特別展では、東京・京都の国立博物館など、県外で所蔵されている石川県出土品も里帰りし、加賀・能登の古墳から発掘された豪華な副葬品や埴輪などが一堂に会する絶好の機会となります。

古墳が造られた時代

古墳時代は3世紀中頃に始まり、6世紀の終わり頃まで、約350年間にわたって続きました。ちょうど、邪馬台国の卑弥呼が君臨した頃から聖徳太子が活躍した頃までの間の時期が古墳時代にあたります。『魏志』倭人伝には、250年頃に卑弥呼は大きな塚に埋葬されたと記され、同じ頃に巨大な前方後円墳が出現することから、卑弥呼が古墳に葬られた最初の王であったと考えられています。

日本特有の巨大な前方後円墳は、エジプトのピラミッドや秦の始皇帝陵とよく比較されますが、こうした巨大な王墓は、古代国家が形成される初期段階に特徴的に出現することが知られています。巨大な古墳は、埋葬された王の権威と権力を誇示する壮大なモニュメントとなり、王墓の建設と王の葬儀に結集されたエネルギーは、国家が成立するための社会的基盤を生み出すことになりました。

加賀・能登の古墳と古代豪族



珠洲市大島4号墳 双鳳文環頭大刀
(竹内虎吉氏蔵)

古墳は、大和政権が所在した奈良県など、近畿地方だけに築かれたわけではありません。古墳時代には、大和政権が求心力を強めつつありましたが、全国各地に有力な豪族も割拠し、大きな古墳を競って築き上げました。

各地の古墳には、前方後円墳という墳丘の形や副葬品など、大和政権と共通する部分が多い一方で、地域ごとに独自性も認められます。古墳には、地域の首長と大和政権あるいは他地域の首長との政治的な関係が表出されていて、これを読み解くことで加賀・能登の古代史に新たな展望が見えてきます。

石川県には、約3100基の古墳が確認されています。最も数が多

いのが七尾市で、次いで中能登町・加賀市に多いのですが、面積あたりでは、中能登町・七尾市・能美市の順になります。石川県最大の古墳は、秋常山1号墳(能美市、国指定史跡)で、巨大な前方後円墳の全長は141mを測ります。『日本書紀』などの文献史料には、加賀に江沼臣・道君、能登に羽咋君・能登臣といった古代豪族が登場します。これらの豪族が本拠地とした地域に多くの古墳が築かれましたが、それ以外の地域にも古墳の分布は広がり、史料に記録されなかった豪族もいたようです。

展覧会の見どころ

特別展では、加賀・能登を代表する古墳の出土品を時代の流れに沿って展示しています。そのなかでも、特に見どころとなる重要な資料を紹介していきます。

雨の宮1号墳(中能登町、国指定史跡)は、長さ64mの前方後円墳で、埋葬施設から200点におよぶ副葬品が発見され、一括で重要文化財に指定されています。古墳時代前期(4世紀)に造られた古墳で、銅鏡(神獸鏡)や南海産の貝の腕輪をかたどった腕輪形石製品、鉄製の刀剣類や甲などが副葬されていました。特に、銅鏡は古墳に副葬されることが多い器物で、権威の象徴として重視されていました。大和政権が中国の王朝へ朝貢した際に輸入された中国鏡やそれを政権膝下の工房で模作した鏡が全国各地の古墳から出土しており、大和政権から各地の豪族へ分け与えられたと考えられています。

狐山古墳(加賀市、国指定史跡)は、古墳時代中期(5世紀)に造られた長さ約55mの前方後円墳で、石棺から銅鏡や銀製帯金具・銅鈴、甲冑などの副葬品が発見されました。5世紀は「倭の五王」の時代と呼ばれ、倭と呼ばれた日本は、朝鮮半島での軍事的支配権を認めてもらうために、中国に使節を派遣していました。朝鮮半島では国々の間で領土争いが頻発し、鉄資源を依存する日本も半島情勢を無視できず、「広開土王碑」などに記されたよう



加賀市狐山古墳 銀製帯金具
(東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives)



加賀市狐山古墳 短甲
(東京国立博物館蔵
Image:TNM Image Archives)

に、倭の軍勢が朝鮮半島に渡ることもあったようです。古墳にも鉄製の武器・武具が副葬されることが多くなり、狐山古墳のように、南加賀は北陸のなかでも甲冑が副葬された古墳が多いことがわかっています。狐山古墳から発見された朝鮮半島製の銀製帯金具も、当時の東アジア情勢を反映した副葬品です。

矢田野エジリ古墳(小松市)は、古墳時代後期(6世紀)に造られた長さ30mの前方後円墳で、北陸で最も残りの良い埴輪が発見され、重要文化財に指定されています。埴輪は、古墳に立て並べられた焼物で、矢田野エジリ古墳では様々な容姿の人物埴輪や馬形埴輪が出土しています。人物埴輪には、巫女の衣装を着た女性やひざまづく男性などが表現され、古墳で行われた儀式を再現していたとする説があります。この古墳の埴輪は、朝鮮半島から

伝わった新来の焼物(須恵器)の技術を用いて作られたのが特徴です。6世紀には越前(福井県)出身の継体大王が新王朝を立てたと言われ、大王を支えた尾張(愛知県)・近江(滋賀県)・越前などの豪族たちの本拠地にも同じ技法の埴輪が分布しています。継体大王の母方の祖母が南加賀の江沼臣の出身であったことから、継体大王との関係が注目されている埴輪です。



小松市矢田野エジリ古墳
人物埴輪・馬形埴輪
(小松市埋蔵文化財センター蔵)

子ども向けの体験・関連行事も充実

この特別展にあわせて、子ども向けの体験展示もあわせて開催します。散田金谷古墳(宝達志水町、国指定史跡)の石棺(再現品)をみんなで協力して組み上げたり、副葬品や埴輪の復元品にふれたり、パズルにチャレンジしたりして、古墳時代を体感しながら学ぶことができます。また、『ひとり古墳部』の出版で注目を集めるスゾアキコさん(石川県出身のイラストレーター)のイラストが入ったワークシートもお楽しみ下さい。そのほかにも、講演会や展示解説、古墳の見学会などの行事も予定していますので、この機会にぜひ加賀・能登の古墳に親しんでいただければと思います。

■ 関連行事

・特別展記念講演会

「ヤマト政権の推移と加賀・能登の古墳時代」

講師：福永伸哉氏(大阪大学大学院教授)

日時：4月23日(土) 13:30~15:00

会場：ワークショップルーム

定員：120名

※申込不要、当日先着順、聴講無料

・ミュージアムウィーク講演会

『かが・のと』オススメの古墳めぐり

講師：スゾアキコ氏(帽子作家・イラストレーター)

聞き手：当館学芸員

日時：5月3日(火・祝) 13:30~15:00

会場：ワークショップルーム

定員：120名

※要申込、聴講無料

申込方法

県文化振興課(076-225-1371) または県立歴史博物館(076-262-3236) まで電話(先着順)

・れきはくゼミナール「副葬品にみる加賀・能登の古墳時代」

講師：三浦俊明(当館学芸主任)

日時：5月7日(土) 13:30~15:00

会場：ワークショップルーム

定員：80名

※申込不要、当日先着順、聴講無料

・展示解説

日時：4月16日(土)・4月30日(土)・5月15日(日)

いずれも13:30~14:30

講師：当館学芸員

会場：特別展示室

※申込不要、要観覧料

・古墳ウォーク「能美古墳群を歩く」

学芸員の解説を聞きながら、国指定史跡能美古墳群を見学します。

日時：5月14日(土) 13:00~15:00

(雨天の場合は5月21日)

集合：能美市立歴史民俗資料館(能美市寺井町を20)

定員：30名(事前申込が必要です。健脚向き)

※参加費無料

申込方法

往復ハガキに住所・氏名・電話番号・「古墳ウォーク申込」を記入し、県立歴史博物館まで郵送して下さい(締切：4月30日必着、応募者多数の場合は抽選)

・ワークショップ「卑弥呼の鏡を作ってみよう!」

合金を使って古墳時代の銅鏡のミニチュアを作ります。

日時：5月4日(水・祝) 13:00~15:00

会場：ワークショップルーム

定員：20名

※申込不要、当日先着順、参加費無料



館長コラム
Column 「天下」の語をめぐって

今年度から、年2回の館長講座を開くことにいたしました。

今年からしばらくは、いわゆる「天下人」といわれる、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康、それぞれの時代について、近年の様々な成果を紹介することに重心を置きつつ、その時代に加賀や能登はどのような状況にあり、また中央の動向にどのような関わり合いがあったのかについても話そうかと思っています。

今年度第1回は、「織田信長の時代と加賀・能登」をテーマとします。そのなかの話題として、「天下」という語に注目して話そうと思っています。

「天下」という語は、「天が下」とも読まれ、一般的には漠然と広く日本全体あるいはそれを越える世界と理解されてきました。

織田信長の印章に刻まれた「天下布武」の文字は、信長の天下統一への意志を表明したのとして、多くの教科書は記述しています。たとえば、高等学校の教科書でもっとも採用数の多い山川出版社の『詳説 日本史』では「1567（永禄10）に美濃の斎藤氏を滅ぼして岐阜城に移ると、『天下布武』の印判を使用して天下を武力によって治める意志を明らかにした」と書かれています。

ところが、信長・秀吉の時代の「天下」という語が、地理的・空間的には、天下統一といったときの天下とは異なり、日本全土を指すことは極めて少なく、京都あるいは京都を核とする畿内を指すことが近年明らかになってきています。こういうと、多くの人は違和感を感じられるかと思っています。

そこで、「天下」を京都あるいは京都を核とする畿内とする用例を一、二あげておきましょう。まず一つは、織田信長が足利義昭を奉じて入洛した永禄11年（1568）の二年前、永禄9年に越後の戦国大名上杉輝虎（謙信）が書いた願文に「武田晴信（信玄）たいち（退治）、氏康（北条）輝虎実は無事をとけ、分国留守中きつかいなく、天下江令上洛」とみえます。その大意は、甲斐の武田信玄を退治し、小田原の北条氏康とは和平を実現することができれば、分国（領国）を留守するも気遣いなく、「天下」へ上洛することができる、というものです。この最後の部分の「天下江令上洛」の「天下」は、「分国」と区別され、日本国中ではなく京都の意で使われています。

もう一つ例を挙げましょう。1682年11月に、イエズス会の宣教師ルイス・フロイスが年次報告として送った書翰に「日本の君主国、すなわち天下と称する近隣諸国」とみえます。ここでの「天下」は、日本全国ではなく、京都を核とする畿内ということになるかと思っています。

このように「天下」を京都あるいは京都を核とした畿内と捉えるとき、先の信長の印章に刻まれた「天下布武」の意味も再考しなければならないかと思っています。信長が、この印章を使い始めるのは、永禄10年8月に美濃の斎藤氏を攻め滅ぼした直後のことです。「天下布武」は、「天下に武を布く」の意ですが、当時の「天下」が京都あるいは京都を核とする畿内の意であることを踏まえたとき、「天下布武」の意は、信長が京都あるいは京都を核とした畿内に武を布くということになります。とすれば、この「天下布武」の印章の使用をもって、これまで言われてきたような信長の天下統一の強い意志の発現とはいえないこととなります。

最初の講座は、こうした「天下」の理解を中心にこの時代を考えてみようと思っています。



織田信長の印章「天下布武」

教育プログラム Educational Program

博物館で発見する暮らしの変化

「これ、どうやって使う!?!」「この中に何入れるん!?!」「これ教科書に出てるのと同じ!!」と、昔の道具を手にして興味深そうに観察する小学生たち。初めて使うダイヤル式電話に、行列が出来たりもしています。ここ「歴史体験ひろば」の一角「山の民家」コーナーでは、囲炉裏を囲みながら、本物の「昔の生活道具」に触れることができます。並んでいるのは、おひつ、箱膳、洗濯板、火吹き竹、藁靴など、どれも実際に使われていた本物の民俗資料ばかりです。

現行の小学校学習指導要領(社会科)には「博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること。」とあります。特に3、4年生の社会科教科書には、地域の人々の生活について、古くから残る暮らしにかかわる道具の見学や調査などの具体例が示されています。

最近では博物館の見学だけではなく、資料を積極的に活用しようとする学校が増えてきました。実際に見たり、触ったり、試したりして、それぞれ様々な感覚を通して本物に触れる感動を味わうこと、こうしたことは、子どもたちの意欲や学習効果を高める上でたいへん重要なことだと思います。これまで当館への小学校団体の来館は、歴史を学び始めた6年生が大半でしたが、リニュー

アルオープンした27年度は3年生以上の利用も増えてきました。当館ではこうした状況をふまえ、要望に応じてワークショップルームでの解説会(クラス単位)や、学校向け体験用資料の貸し出しを行うなど、授業の一環として活用してもらうための便宜を図っています。お問い合わせ、ご相談は当館普及課(Tel.076-262-3417)までどうぞ。

○体験可能な主な実物資料

- [食生活] おひつ、釜、しゃもじ、陶器製おろし皿、ところ天突きなど
- [衣生活] 洗濯板、炭火式アイロン、火のしなど
- [冬の道具] あんか、豆炭こたつ、湯たんぽ、子ども用除雪具など
- [はかる道具] 枡、竿秤、五つ玉算盤など
- [その他] ダイヤル式黒電話、煙草盆、昔の教科書など

○体験用資料貸出要項

http://ishikawa-rekihaku.jp/activities/pdf/kashidashiyoukou_20150629.pdf



解説会風景(ワークショップルーム)

■ 催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。

- 学芸員によるワンポイント解説(全10回) ※要観覧料、申込不要
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。
時間 13:30~14:00 場所 展示室
- れきはくゼミナール(全10回) ※受講無料、申込不要
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。
時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
- 古文書講座(前期・後期各3回) ※受講無料、要申込
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。
時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
前期分のお申込みについては当館HPをご覧ください。
- 館長講座(年2回) **new!** ※受講無料、申込不要
日本近世史が専門の藤井譲治館長が信長・秀吉・家康が生きた天下人の時代の歴史を解説します。
時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム

5月

- 7日(土) れきはくゼミナール
「副葬品にみる加賀・能登の古墳時代」
三浦俊明(当館学芸主任)

※5月の休館日 5/23(月) 5/24(火)

6月

- 5日(日) 第1回 館長講座「織田信長の時代と加賀・能登」
- 18日(土) れきはくゼミナール
- 23日(木) 古文書講座(前期第1回)
- 24日(金) 学芸員によるワンポイント解説

※6月の休館日はありません

トピックス Topics

リニューアルした博物館の人気スポット —フリーゾーン編—

早いものでリニューアルオープンしてから、もうすぐ1年が経とうとしています。今回は、博物館のフリー(無料)ゾーンから新たな人気スポットをいくつかご紹介します。

ガラス張りの休憩スペース「ほっとサロン」は、お客さんが博物館の展示を見る前後に外を眺めながらちょっと一息していただくために新設されました。ほっとサロンの前を通りかかると、コーヒーなどを飲みながら休憩したり、4~5人でおしゃべりや打合せをしたり、本やスマホを片手にぼーっとしたりするお客さんの姿を見かけます。リニューアル前の博物館では見られなかった光景です。



ほっとサロンとしだれ桜

春の日差しが心地よくなってきた今日この頃。フリーゾーンが新設され、より親しみやすくなった博物館にぜひお越しください!

もう一つの人気スポットが「歴史体験ひろば」です。1月末から3月の土・日・祝祭日限定で十二単の着付け体験を行ったところ、地元のテレビ番組で取りあげていただいた反響もあり、連日お子さんから大人の方まで多くのお客さんにぎわいました。

春の日差しが心地よくなってきた今日この頃。フリーゾーンが新設され、より親しみやすくなった博物館にぜひお越しください!



十二単を着てみたよ!
(歴史体験ひろば)

次回展覧会のお知らせ Upcoming Exhibition

夏季特別展 「セラミックス・ジャパン—陶磁器でたどる日本のモダン—」

7月23日(土)~8月28日(日) 特別展示室・企画展示室

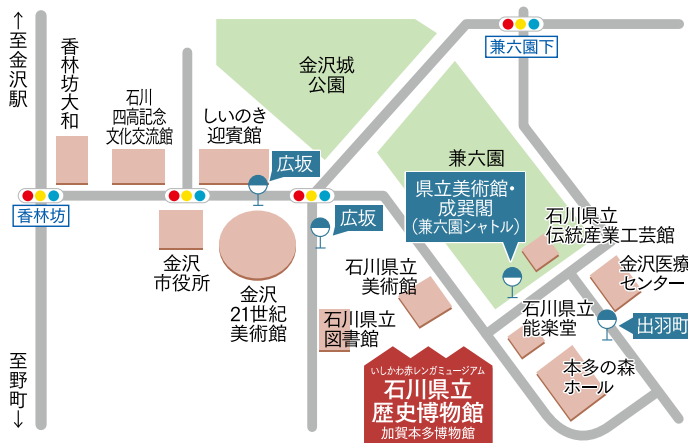
近代日本において、陶磁器の品質とデザインは、世界的に評価が高かった数少ないものの一つでした。最近話題の「クールジャパン(世界で評価される日本独自の文化)」の原点は、まさに近代日本の陶磁器造りの歩みの中にも見られるといえます。「デザイン」を意識した先人たちが、どうやって新しいものを生み出し、後に大量の製品を世界に流通させることができたのか。その戦略を探り、人々を魅了したモダンデザインの全容と系譜を、創造性豊かな作品と関係資料約150点で紹介。また会期中には講演会、展示解説、陶磁器造り関連ワークショップなど、様々なイベントを予定しています。



新製マジョリカ額皿 1905年
東京高等工業学校/板谷波山
東京工業大学博物館
(所蔵及び写真提供)



上絵人物園花瓶 1873年頃
東京錦窯/月園
個人蔵



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL : 076-262-3236 FAX : 076-262-1836
E-mail : rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/

[広告]

SOMPO ホームデシジョン
損保ジャパン日本興亜ひまわり生命

ご契約年齢
満20歳~満80歳

新 健康のお守り
ハート
私法期間中無解約返戻金設定特約医療保険・手術1型

「不安」を「安心」にかえる医療保険

健康に不安がある方のためにできました。

- ✔ 健康に不安がある方
- ✔ 持病がある方
- ✔ もう医療保険に「はいれない」と思っていた方

を一生保障する医療保険です。

HL-P-B1-15-01567 (2016.02.09-2018.01.31)

0037-6001-64027

■受付時間: 10時~19時(日曜定休)

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。恐れ入りますが携帯電話等でおかけ直してください。

【募集代理店】株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18
【引受保険会社】損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社
〒163-8626 東京都新宿区西新宿6-13-1 新宿セントラルパークビル
TEL:03-6742-3111 (代表) 広告有効期限: 2016年9月30日